

にっこりい

～いつもやさしく～



発行日：令和2年10月10日 第62号

令和2年度敬老おたっしや会を終えて



9月13日に敬老おたっしや会が行われました。今年新型コロナウイルス感染症の影響でご家族や地域の方をお招きできない敬老おたっしや会となりました。ご利用者も残念ではあったと思いますが、ご家族からのメッセージをととても喜んでいただくことができ、うれしく思いました。ご協力ありがとうございました。

『まごごろ』のテーマで行われた今回のおたっしや会、身内を祝うように、こじんまりと、アットホームな雰囲気になりました。

新型コロナウイルス感染症が早く落ち着いて、顔を合わせ話ができるように願うばかりです。

敬老おたっしや会 実行委員長 萩森 美保

第19回天神原夜まつりを終えて



新型コロナウイルス感染症の影響で今年天神原夜まつりは日中での開催となりました。

各フロアでの催しとなりましたが、ゆっくり過ごす事ができました。

またご利用者と職員との関わりも一層深まったように感じました。

この状況が一日も早く収束することを願うとともに、これからは皆様と『縁』を繋いでいけたらと思っています。

天神原夜まつり 実行委員長 山浦 加菜子

編集・発行

城西医療財団 白馬広報委員会

社会医療法人 城西医療財団 <http://www.shironishi.or.jp>

かみしろ 神城醫院（内科・心療内科・皮膚科・精神科）

‘S’ ウェルネスクラブ神城（厚生労働省認定健康増進施設）

しろうま 白馬メディア（介護老人保健施設）

かたくりの郷（認知症対応型共同生活介護）

北アルプス訪問看護ステーション

北アルプス訪問介護ステーション

しろうま（居宅介護支援事業所）

〒399-9211

長野県北安曇郡白馬村大字神城 22844

TEL 0261-75-7100（代）

FAX 0261-75-7120



人事 ①



新事務長 手塚 尚徳

10月1日より白馬メディアに赴任することとなりました。手塚尚徳（テヅカタカノリ）と申します。

当法人は主な施設として、松本地区に1か所、安曇野地区に2か所。そして、白馬地区にこの白馬メディア1か所と合計4か所が中信地区にあります。法人内すべての拠点に転勤職員は初めてのケースとなります。いろいろな施設で働きましたので、白馬での良い点悪い点と見出し、ご利用者の利便性の改善に繋がれば幸いです。



前事務長 石川 紳

この度、定年を機に事務長職を退くこととなりました。

平成24年4月から8年半、至らぬ事ばかりでしたが、皆様のご理解とご協力のおかげで、務めてくることが出来ました。心より感謝申し上げます。

後任には、介護老人保健施設安曇野メディアで事務長を務めておりました手塚尚徳が着任します。変わらぬご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

コロナ禍で大変な状況ではありますが、皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

第13回シンポジウムのご案内

毎年11月に開催を予定しておりました第13回白馬メディアシンポジウムは、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、誠に残念ながら施設内研修といたしました。シンポジウムの内容につきましては、次号にてご報告させて頂きたいと思っております。ご参加を予定いただいていた皆様には、ご迷惑をおかけすることとなり大変申し訳ございません。何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。



感謝

神城醫院 看護部
藤井 慶美



「えらいこっちゃ！えらいこっちゃ！どないすんの！？」なんであの時OKしたんよ！？
「この原稿を書き上げて提出せなあかんのやで！」・・・

普段の会話は本能と反射で受け答えしている私は、脳を使っていないのではないかと考えています。でも、文章を書くとなると私の身体と精神のあらゆる力を総動員しても難しいのです。しかもパソコンが大の苦手です。しかし広報委員会の担当者に「手書きでいいですよ～」と言ってもらいました。これほど弱い者に寄り添った対応があるのでしょうか？そうなんです、私が書きたかったのは『感謝!!』なんです。

私は2年前の春に名古屋から神城醫院で働きたくて初めて白馬に来ました。そして白馬に来た日にたくさんの『ひとめぼれ』をしました。嬉しかったです。私は一緒に働くスタッフが好きです。みんな手を抜くことなく懸命に働きます。夕方の会議にも必ず出席します。患者さんやご家族には行き届かないところもあると思いますが、安心して入院生活を送っていただけるように最高のケアを提供できるように日々努力しております。そしてみんなが気持ちよく働けるよう笑顔で協力してくれます。本当に『感謝』です。

私は職員寮で生活させてもらっています。他の寮生は私の子供たちと同年代ですが、とてもやさしくしてもらっています。毎日が楽しく本当に『感謝』しかありません。家族の事情で白馬を離れなければならなかったスタッフは、今でも、もう一度ここで働きたいと話してくれます。

私が感じている『感謝』の気持ちをどのような言葉で表現したらよいのかを考えているうちに締め切りの前日になってしまいました。

これを読んでいただいた皆様が笑顔で過ごせますことを、心から祈っております。



遠藤 清水

すみれ棟 新主任 清水 真由美 (前 つくし棟主任)
つくし棟を遠藤主任に託し、前主任から託された、すみれ棟を明るく楽しい生活の場に少しでも近づけるように、日々、努力してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

つくし棟 新主任 遠藤 靖子
前つくし棟清水主任から託された明るいつくし棟をこのまま継続し、それぞれの個性も生かしながら一日一日を大切に過ごしてまいりたいと思います。新米主任ですが、これからも、どうぞ皆さんよろしく願いいたします。



武道を通じて

白馬メディア 介護部
こまくさ棟 高橋 政幸



私は20年来、「沖縄剛柔流空手」という流派で空手を学んでいる。きっかけは、世界のスーパースター「ジャッキーチェン」である。子供の頃、週末のテレビ番組「金曜ロードショー」などを毎週楽しみにしていたのを覚えている。次週予告でジャッキーチェンの映画の告知があった際などは楽しみで指折り数えていたものだ。ジャッキーチェンの代名詞はユーモアと強さの融合、「酔拳」「蛇拳」「少林寺木人拳」は私の特にお気に入りの作品で、見終わった後などは興奮し、映画の修行シーンの真似をして親に呆れられていた。

20代前半の頃、やっと見つけた道場の門を叩き、既に強いつもりで挑んだお試し稽古であったが、結果は見事にブラックアウト（酸欠で失神）であった（笑）。

あれから20年、空手を通じて自分は何を学んできたのか、と最近思う。

空手に限らず「道」と付く習い事にはスポーツとはかけ離れた世界感があり、見た目の華やかさはなく、どちらかという地味である。

大会などに出る事もなく、ただひたすらに基本の立ち方や突き蹴り、組手、型をネチネチやるのである。

稽古の前後に「黙想」という事を行う。正座をし、胴衣を整え、呼吸を整え、30秒程目を閉じ、こころを静める。するとどうなるか。それは見えてくる、目を閉じた正面には弱い自分が居るのである。「ああ、俺は今日もこんな事を考えているのか」と自分が嫌になる、そんな弱い自分との闘い。負けたくはないが100戦全敗、最初はそんなもの。

「法剛柔吞吐（ほうごうじゅうどんと）」という一句が中国武術の古文献にある。武術は剛や柔に偏らず、両方を含んでいるべきである。というような意味。

稽古を積むと相手に生かされていると感じる瞬間がある。だから私も相手を生かす稽古を心掛けているがこれが難しい。結局、相手を思いやる心が自分を生かしてくれるという事だと思う。

「剛」と「柔」強さと優しさを兼ね備えたジャッキーチェンのようなスーパースターにやはり憧れてしまう。未だ100戦99敗で自分に勝てない私だ。今後も懲りずに精進していきたいと思う今日この頃である。

シリーズ にんち 症

第36回



お年寄りの人生に立ち合う

グループホームかたくりの郷

前介護支援専門員 佐藤 千枝子



長い介護職経験の中で、Mさんは色々な意味で忘れられない方だ。暴言が凄まじかった。時に介護者に向けて唾を吐き、手が出たりした。多くの職員が泣かされ、悩まされた『大物』である。

Mさんは女性である。認知症だけでなく心の病も抱えていた。独居生活が難しくなって80代で老健に入所となったが、勿論本人は不本意だった。毒舌家で容易に人を受け付けない彼女をどのように理解し、関係性を作ったら良いか私を含めチーム全体が途方に暮れていた。

ある日、茶髪にピアスという16歳の少女が入职し、しばらくしてMさんの担当となった。少女には特別な才能があった。相手の警戒心を解き、懐の中に入れて行けるのだった。Mさんは彼女に心を許し、頼りにした。時に甘え、時に諭され、ケンカまでした。

二人の関係の深まりと共に、私たちはMさんの人生を知った。結婚後、数か月で戦争に行ったご主人は戦死し、届いた骨箱はカラコロ音がした。開けてみると小さな石が一つ入っていた…。産んだ男の子は後継ぎとして嫁ぎ先に引き取られ、Mさんは家を出なければならなかった。その後は、土方や賄いなど様々な仕事をしながら一人で生きて来た。会うことが叶わなかった息子さんに一目会いたくて、遠くからこっそり眺めた…。

夫を失い、自分の子供まで手放さなければならなかった人の悲しみと苦しみはどれ程のものであったろうか。心を病むことも、誰かに八つ当たりすることも当然ではないか。Mさんは今まで耐えてきた怒りや悲しみ、無念さを吐き出さずにはいられたのではないか。私たちのMさんの見方が変わると、関係に変化が生じてきた。

私が以前に住んでいた美麻のボロ家に遊びに行ったことがある。数人でわいわい車に乗り込み、座卓を囲んで昼食を食べ、隣のおばあちゃんと縁側で世間話をし、川の字になって昼寝する…。こんな他愛のない出来事をMさんはとても喜んでくれた。誰もがくつろぎ、笑顔だった。色々なことを試みた。施設でお赤飯を作ってもらったこともある。職員に甲斐甲斐しく指示を出し、自らも張り切って立ち回る生き生きとした姿が忘れられない。

加齢と共に寝たきりになり、食べることができなくなったMさんのその後を、私は退職後に知った。彼女の人生の最終章に大きな展開があった。息子さんと再会を果たしたのだ。既に言葉を交わせる状態ではなかったというが、Mさんには解ったはずだ。最愛の息子が駆けつけ、それが担当介護士によるビックプレゼントだったことを。

今回、「シリーズ認知症」の原稿依頼を受け色々考えたが、私の胸に去来するのは「認知症の〇〇〇さん」ではなく、「Mさん」だった。あの人、この人…誰もが懸命に生き、固有の物語を持っていた。

私たちは「介護」という仕事を通じてお年寄りに出会い、共に混乱の日々を過ごす。けれど、私たちが通り一遍の「立場」や「知識」を捨て、曇りない目でその人に向き合い、人生にまで目を向けると別のものが見えてくる。

Mさんと茶髪の少女は、そのことを教えてくれたのだった。

～編集後記～

例年より遅いですが朝晩めっきり涼しくなってきました。暑かった夏に別れを告げ、食欲の秋よ、こんにちはと思う今日この頃。秋は焼き芋、松茸、栗などおいしい食べ物がいっぱいですね。中でも長野県を誇る有名な果物といえばシャインマスカット。今年にはスモモのような大きさのシャインマスカットを購入し、少し贅沢してみました。Stay Shinsyu この機会に長野県の秋の味覚の旅を試してみませんか。 森 聡子

